

技術士交流報告



第34回 日韓技術士会議報告

技術士（建設部門） 市村 一志

1. はじめに

第34回日韓技術士会議は、平成16年10月26日（火）に鳥取県米子市米子コンベンションセンターで開催されました。主催は(株)日本技術士会、後援が鳥取県、米子市です。

日韓技術士会議の進め方は、本部に日韓技術士会議実行委員会が設置され、年に一回日韓両国で交互に開催する会議の立案計画等を行います。開催地には地元実行委員会を設置し、実施計画及び具体的な準備を行います。今回は、中・四国支部の鳥取県の技術士が中心になって実行委員会を運営しました。宿泊、送迎、会場、晚餐、研修、事務等多岐にわたる準備がありますが、印象に残ったのは、若い技術士が一生懸命活動して当会議を盛り上げたことです。

2. 会議の概要

両国の参加者は、日本側技術士183名、同伴者19名、事務局5名、韓国側技術士61名、同伴者49名、事務局3名の合計320名の方々が集まりました。この数値は今までの会議の中で、最も多い参加者になると思います。年々婦人の参加が多くなり、更に若い技術士の参加が増え、子供連れで参加するようになりました。韓国技術士会の青年技術士の会長が出席しましたが、来年韓国でやるとき100名の青年技術士を参加させると胸を張って言っていました。韓国のベテラン技術士は盛んに首を振っているのが印象的でした。

合同シンポジウムのテーマは、両国が何度もやり取りして、これからのわれわれ技術者が、中国を含めた東北アジアの技術発展の為に、リーダーシップを取るべきとの意識から設定されました。

今回の分科会では、新エネルギーの項目を取り入れたのが新しいことです。両国にとって資源もエネルギーも乏しい共通点があり、特に日本側が積極的な発言を行っていたと思います。

総括として全体の運営がスムーズに運ばれ、大変よかったです。



式典の様子

会議の次第は次のとおりです。

時 間	主 な 内 容
09:00~09:45	式典 両国技術士会会長挨拶 両国技術士会委員長基調報告
10:00~12:00	合同シンポジウム 日本側—アジア環境の創成 韓国側—地球環境問題の開発と保全の葛藤
13:00~17:00	分科会シンポジウム ①環境と観光 ②建設と防災 ③技術と倫理・CPD ④資源と新エネルギー ⑤技術者の国際交流（英語討論）
18:30~20:30	晚餐会
09:00~15:30	レディース・コース 両国婦人観光、松江、米子等

3. 晩 餐 会

日韓技術士会の晩餐会は実に華やかです。日本の

婦人は和服、韓国の婦人はチマチョゴリを着て正装します。オープンは、日本の技術士が入り口で拍手をして迎えて始まりました。

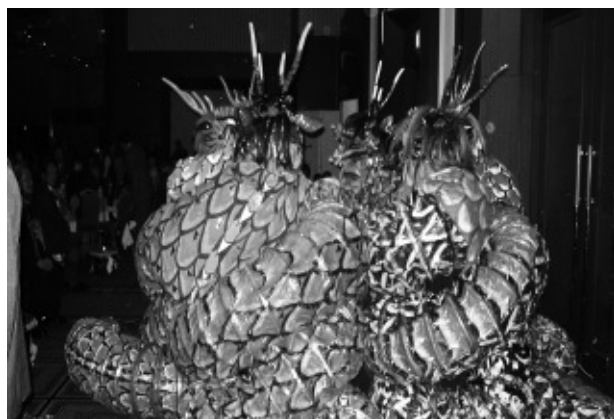
中・四国支部の牧山支部長より歓迎の挨拶があり、続いて、(社)日本技術士会会長、鳥取県知事（代理）、米子市長から挨拶があって、韓国技術士会長から、中越地震のお見舞いの言葉を頂きました。



韓国婦人の恒例の合唱

毎回恒例になっている友好盾は、今年は韓国が受ける番で、黄商模、金又俊の2氏に贈呈されました。更に中山委員長のアイデアにより、金佑子婦人に友好親善感謝記念品を贈呈しました。これは、上記の写真にありますように、毎回、韓国の婦人による合唱で大変雰囲気盛り上げてくれたことに感謝するものです。韓国の婦人は大変歌が好きですし、うまいです。練習してくるのかと思ったら、日本に来て音合わせをするのだそうです。

アトラクションは、鳥取県立日野高等学校の郷土芸能「荒神神楽」を披露しました。初めて見る人が多く、神楽の前で記念写真を撮る人がたくさん見ら



「荒神神楽」高校生19名の熱演

れ、盛り上がりは最高になりました。

さて次回の開催は韓国です。第35回の開催地は、韓国全羅北道、道都全州（チョンジュ）で、京都と同じように、元百済の首都・千年の古都と言われています。ソウルからも釜山からも、バスや鉄道で簡単につながります。昨今の韓国ブームに乗って次回韓国に行くのもいいですね。



2005年の開催案内

4. 研 修

翌日の研修旅行は、バス3台による朝鍋ダム、とっとり花回廊、大仙、古代の丘・白鳳の里等を和やかな雰囲気の中で進められました。

途中のバスの中で、中越地震による車の中に生き埋めになった家族の、救出実況TVが放映され、一筋の明るさを感じると共に、私たち技術士が、やらなければならないことが沢山あると実感した研修でもありました。最後になりましたが、北海道からは、高橋陽一さん、斉藤有司さんが参加され、楽しい国際交流を行いました。有難うございました。



とっとり花回廊（サルビアの花畑）